つばな画像しか描けない。画像を映し出すスピードも、テリドンの方が速い。さらに、テリドンのコンピューターが複雑な指示を受けて翻訳し、またいろいろな機能を果たす能力は、他の型の能力よりすぐれているという。

テリドン本機はオンタリオ州ペイケナムのノーパック社、また改造テレビ受像機はオンタリオ州ウォータールーのエレクトロホーム社が製作する。ノーパック社は、システムで使われるその他の機材（二種の通常型コンピューターを除く）も供給し、またシステムの設計および統合にあたる。全システムは、六十のユーザー端末機と関連機器からできている。

ワシントンに送られる端末機は、簡単に電話線、ケーブル、あるいは光ファイバー用に適応できるが、今回は空中伝達に利用される。

カナダ通信省（テリドンはその通信研究センターで開発された）が、テリドンを使った最初の放送実用実験を実施しているTVオンタリオと共に、技術指導を行なうことになっている。

ワシントンでの実験では、ワシントン・ポスト紙、ワシントン・スター紙、首都内の諸公共図書館、いくつかの政府官庁、連邦通商委員会、食品医薬品局、エネルギー省、スミソニアン研究所、連邦情報センター、調達局消費者情報センターなどが、情報を提供する情報源（インフォメーション・プロバイダー）となる。

なおカナダでは、テリドン端末機を用いたいろいろな実験が計画または実施されている。

米国のほか、ベネズエラでも、政府がユーザー端末機三〇基、情報供給端末機六基を含むテリドン・システムの購入を決定している。ベネズエラ政府では、テリドンの端末機を首都カラカスのいくつかの情報センターおよび公共図書館、電話利用室などに設置して、社会的サービス、教育、統計、保健衛生などに関する情報を一般市民が得られるようにするという。

## 総督が参列、故大平首相の葬儀に

七月九日に行なわれた故大平総理大臣の葬儀に、カナダを代表してエドワード・シュライヤー総督（写真）が参列した。

総督はチャールズ・ラポワント中小企業大臣および六人の随行員を伴なって七月七日、特別機で来日。翌日は伊東臨時首相代理を表敬訪問、八日はランキン駐日大使、ラポワント大臣、デビッド・

カルバー日加経済人会議カナダ委員会会長と共に、武道館での葬儀に参列、翌九日帰国した。

なお、大平首相の死去に際し、トルドー首相はじめ、カナダ下院、外務大臣、ブリティッシュ・コロンビア州首相らが弔辞を送っている。

## 北極海の天然ガスを初輸出
## 米国向け、スワップ方式で

カナダの石油公団ペトロ・カナダを中心とするコンソーシアム、アークティック・パイロット・プロジェクト社では、このほど、北極海諸島で採掘された天然ガスに対する初めての注文をとりつけた。

これは米加両政府の認可を得て、一九八三年から八五年までに四億五千万立方フィートの天然ガスを米国に輸出するというもの。実際には、北極の天然ガスはオンタリオ州など東部カナダで消費され、米国へは西部カナダの天然ガスを送る、というスワップ方式がとられる。輸出総額は四〇億ドル。

ペトロ・カナダが四五パーセント所有し、探査費の大半を支出しているパナークティック社では、北極諸島での天然ガス探査開発に、これまで四億ドルをつぎ込んでいる。

## 初の国際衛星郵便サービス
## カナダ・英国間で開始

カナダ郵政省とテレグローブ・カナダでは、このほど、通信衛星を使ってトロントから英国のロンドンへわずか数分以内で〝郵便〟を送るサービスを始めた。この種の電子郵便サービスが国際的に行なわれるのは、これが初めて。

このサービスは、インテルポストと呼ばれ、一ページ五ドル（約九百円）で手紙、写真、絵、図形などを電送する。銀行、証券会社、貿易会社にとって非常に便利だろう。

通信文や図形は、トロントにあるインテルポスト・センターで解像度の高い走査装置に入れる。これで原画は電気的信号に変わる。それを通信衛星でロンドンに送ると、きれいに再現されたファクシミリとして受信される。このファクシミリは、インテルポストの封筒に入れられ、英国の郵便局が速達で届けるか、受取人に直接手渡される。英国からカナダに送られる通信も、同様に扱われる。

## バクテリアから自動車燃料

トロント大学では、バクテリアを使って自動車燃料を抽出することに成功した。

このバクテリアは関節胞子菌属（地中にいる棒状または球状バクテリアの一種）「AK19」と呼ばれ、油粒がつまっていて、顕微鏡で見ると、種でふくらんだサヤエンドウの形をしている。オンタリオ州南部にあるガス井の入口で繁殖しているところを発見され、ブタンガスを食べて石油に変えていたことが分った。

研究グループの主任ウェイマン博士によると、AK19はイーストなどから作られるグルコースその他の糖分でも繁殖するという。

## カナダから農業実習生

国際農友会では、毎年、日本から何人かの農業実習生をカナダへ派遣しているが、今年はカナダから二人の実習生を受け入れた。

来日したのはオンタリオ州キッチナーのデボラ・スタイノフさんと同州ゲルフのロバート・マクレイさん。スタイノフさんは長野県駒ヶ根市の塩沢宗氏宅に滞在して花や園芸などについて研修し、マクレイさんは同県中野市の阿部光規氏の世話でリンゴやモモなどの果実植物について研修している。

## アルバータと北海道が
## 姉妹提携

オイルサンドなどの豊富な天然資源や世界的な保養地バンフなどで知られるアルバータ州が、九月はじめ、北海道と姉妹提携した。

提携の構想は、一九七八年に札幌で開かれた第一回北方圏環境会議の際に大筋について協議して以来、進められていたもので、これまでも活発な交流が続けられていた。

**●訂正**　前号八ページの記事「十一人の官能的抽象画家たち」は、トロント大学出版局から発行された〝Painting in Canada〟という本からの抜すいとなっていましたが、発行はHarperの間違いでした。